



①堤防の段差を越えるためクレーンで重機や資材を吊り上げていく。②基礎となるコンクリートブロックを3段に積んでいく。③長さ4mの筒を慎重に動かしていく。④火薬を設置するためにクレーンに吊るされて筒の中に下りていく。⑤船で打ち上げ場所となる東堤防に渡る。⑥発射スイッチ。中央左のボタンを押すと発射する。⑦三尺玉から導線をつなぎ発射スイッチへ配線する。

「この状況が数日続いた後、直撃はしないと判断。三尺玉の仕込み作業は当初、打ち上げの4日前から開始する予定でしたが、1日遅らせて3日前の午前中からようやく取りかかりました。」

緊急事態！台風接近

打ち上げ1週間前、きばらん海事事務局では実行委員が浮かない顔をしてインターネットをじっと見つめている姿がありました。大型で強い台風9号が南海で発生、夏台風特有のゆつくりとした動きに不規則な進路のため、花火大会が実施できるかの判断に頭を悩ませているところでした。

4mの筒が聳え立つ

打ち上げ場所は枕崎漁港東堤防の先端から50mほど手前堤防入口から歩いて10分ほどの場所ですが、簡単に「打ち上げ準備完了」とはいきません。それは堤防には大小数かの段差があるからです。堤防に入つてすぐに最大の難所3層はある段差にぶつかります。ここでは、地元の建設会社のクレーン車が資材やトラック、さらには少し小ぶりのクレーン車までも吊り上げて段差を越えていきます。ほかに数か所ある小さな段差には鉄板を敷いて対応しました。

打ち上げ場所までのルートが完成し、午後から基礎造りが始まりました。基礎には一辺1.5mもあるコンクリートブロックを使用。これをクレーン車で吊り上げて、囲いをつくるように3段に積み上げていきます。この作業が終わると中空になっている中央部に砂をまき、上に畳2枚を敷いたあとでようやく筒の設置と

特集

三尺玉が上がるまで

九州で唯一、
ここ枕崎で打ち上げられる三尺玉花火。
今年も市民の想いが詰まった
三尺玉花火が鮮やかに夜空を彩りました。
今回、三尺玉が上がるまでを取材しました。

